

富士電機では、製品の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進し、事業所の「ゼロエミッション」で循環型社会形成に貢献しています。

### 事業活動における廃棄物の削減

廃棄物の削減とともに、廃棄物発生に対する最終処分率を1%以下とするゼロエミッションを目標に、資源循環を推進してきました。

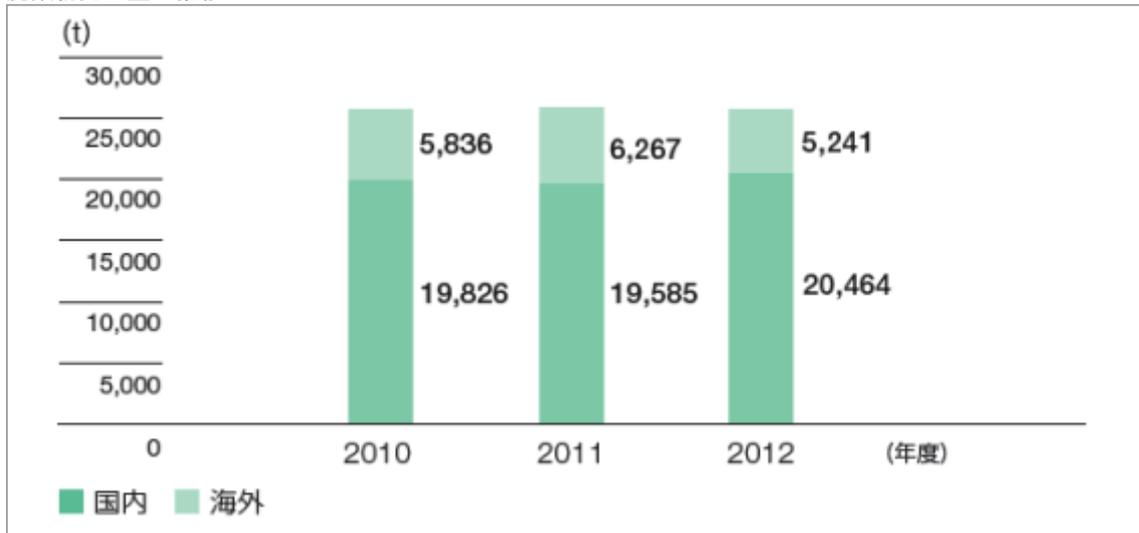
国内では廃棄物の再資源化により、2004年度にゼロエミッションを達成し、以降継続して目標を達成しています。さらに、2011年度からは目標を0.5%以下として資源循環の取り組みを強化しました。

2012年度は、国内2工場(千葉・津軽※)が新たに加わり、廃棄物発生量および最終処分量はともに増加しましたが、最終処分率は0.43%と目標を達成しました。

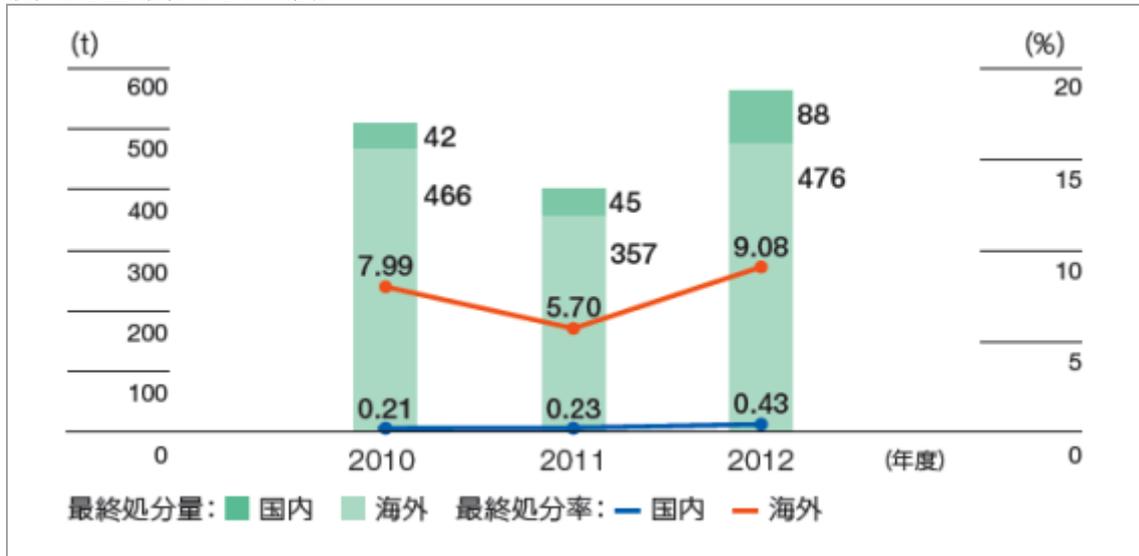
また、海外工場においてもゼロエミッションの活動を開始しています。海外では、新興国などの廃棄物処理や再資源化処理のインフラの整備が国内ほど進んでいない地域もあることから、2013年度は最終処分率7%以下を目標として活動しています。

※津軽：富士電機津軽セミコンダクタ(株)。

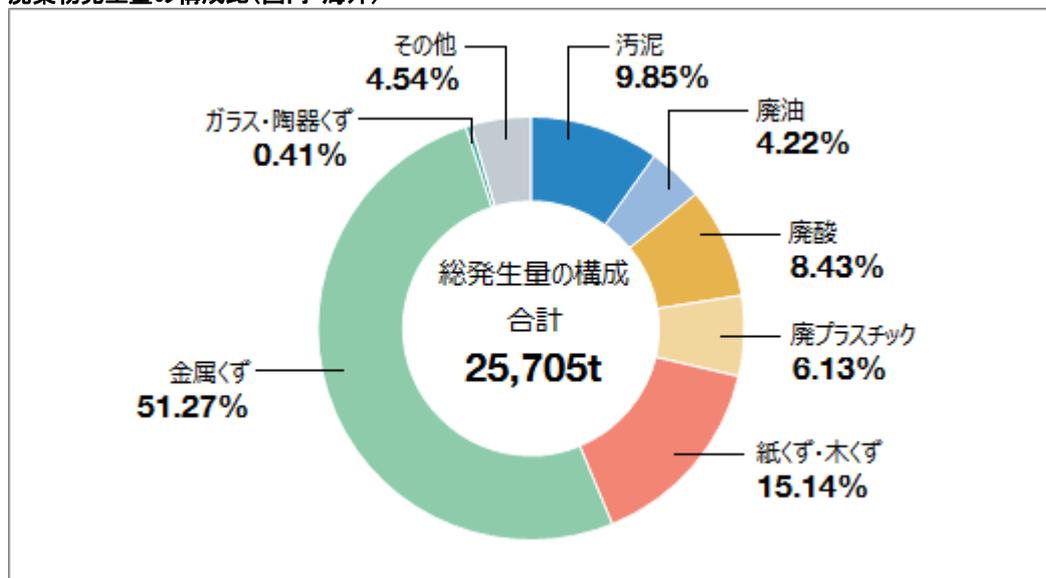
### 廃棄物発生量の推移



### 最終処分量・最終処分率の推移



## 廃棄物発生量の構成比(国内+海外)



### 製品に関する廃棄物削減の取り組み

富士電機は、自販機におけるReduce(リデュース:省資源)、Reuse(リユース:再使用)、Recycle(リサイクル:再利用)の3Rを積極的にすすめて、廃棄物の軽減に努めています。製品の軽量化やダウンサイジングによる省資源化、また、注意ラベルを内扉表面に直接印刷することで、ラベル素材削減などに取り組んでいます。

### 水資源の有効利用

世界的な水資源の枯渇問題に鑑み、これまでの排水品質の遵守、排水量の削減の取り組みに加え、新たに2012年度から、水資源の有効活用を目的に、国内製造拠点に対し、2010年度を基準として、投入量と原単位をそれぞれ1%ずつ削減し、2020年度には10%削減する目標を設定しました。

2012年度の国内の水投入量は5,592千トンで、2010年度と比較して23.2%(原単位は5.8%)の削減となりました。(事業再編による休止事業所の影響も含む。)

2012年度の海外の水投入量は6,548千トンで、前年度の2011年度比10.5%(原単位は9.1%)削減となりました。海外については、この実績を参考に、2013年度以降の削減目標を策定していきます。

今後も取り組みを継続するとともに、特に中国の富士電機(深セン)社などの水資源枯渇リスク地域での有効利用をさらに推進します。

### 生産工程の排水再利用

半導体の製造工程では、製品の洗浄などで大量の純水を使用します。そのため、同製品を生産する松本工場では、純水排水の再利用に積極的に取り組んでいます。

これまで、純度の低下していない排水を純水再生装置で処理し、製造工程で再利用してきました。2011年度からは低純度純水の排水のうち、純度の低下していないものを精密ろ過膜などの設備を通して処理し、クーリングタワーの冷却水や事務所の生活用水などで再利用する取り組みを開始しました。これにより、生活用水のうち、1日あたり約1,500m<sup>3</sup>が再利用水の使用となりました。

### 水投入量・排水量・生産高原単位の推移

